



ねらい

○「良くないこと」であると分かっているにもかかわらず、自分の感情を抑えきれなくて、「衝動的な行動」をしてしまうこともあります。また、「みんなもやっているから」と「人のせい」にして、自分を許してしまうこともあります。そんな時、子どもたちに、何が正しくて何が悪いのかをどのように判断させ、行動させたらよいのか、お互いの考えを出し合って学び合ひましょう。

時間	内 容	主 な 活 動	留 意 点
例： 60分 00:10	はじめのことば 3つの約束確認	「みなさん、こんにちは。ご多用のところ参加いただきありがとうございます。今日は、年齢に応じた“物事の善悪”について、考えてみたいと思います。司会の〇〇です。よろしくお願いします。」 「この会は、ともに楽しく学び合い、みなさんで作り上げていくものです。誰もが『参加してよかった。』と思える会にするために、協力していただきたい3つの約束があります。」 ① 参加 「積極的に話し合いに参加しましょう。全員が参加できるように、協力をお願いします。」 ② 尊重 「お互いの意見や感じ方を尊重しましょう。他の参加者の意見を否定したり、自分の考えを押し付けたりしないようにしましょう。話したくないことは、パスしてもかまいません。」 ③ 守秘 「子育ての交流ですから、個人情報に関わる内容も出てきます。同じ時間を共有する者同士の信頼関係のうえで行われる交流です。決して口外しないようにしましょう。」	◇笑顔で親しみやすい言動に努めましょう。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">小道具として「お茶」やちょっとした「お菓子」があるとやわらかい雰囲気を演出し、話も弾みやすくなります。</div>  ◇会を成功させるために、学習を始める前に参加者全員で「3つの約束」を確認しましょう ◇一人が話し過ぎないように、時間配分を考えながら、全員に話す機会を回すようにしましょう。 ◇「相手の目を見てうなずきながら聞くとか、相槌を打ちながら聞くなどすると、話す人も嬉しいですね。」と具体的な聞き方を伝えると分かりやすいでしょう。 ◇子育て中の親として、家族に関わることも話題になりますが、自由に話してもらうためにも、信頼関係が大切であることを理解してもらいましょう。
0:10	アイスブレイク	「それでは、みなさん、私と一緒に心と体をほぐしましょう。」 「少し緊張していらっしゃるようですので、一緒にリラックスしましょう。」 フルーツバスケットゲーム 「これからフルーツバスケットゲームをします。みなさん、鬼になられたら、お子さんのことで、お家で困られたり、悩まれたりすることを述べてください。それに該当する方は、正直に動いて、新しい椅子を取りに行ってください。」 ＜鬼の言葉の例＞ ・「テレビゲームのしすぎで困っている方」など	◇アイスブレイクとは、  参加者の不安や緊張を氷にたとえ、その氷（不安や緊張）を溶かすという意味をもった活動です。 ◇15ページ「7 アイスブレイク」に活用できる簡単なゲーム ⑤参照 ◇椅子を円形に並べる。危険のないように、机の位置や壁との間隔、円の大きさ等に気をつけ安全面に留意しましょう。 ◇事前にゲームの担当者を決めておきましょう。
00:30	ワークショップ	「お疲れさまでした。悩みは尽きないものですね。それでは、緊張もほぐれたところで、お配りしたプリントの『こんなことありませんか』をそれぞれお読みください。」	◇「こんなことありませんか」については、詳細な説明はせずに、読んでいただくとういでしょう。

		<p><ワーク1> ロールプレイ 「グループの中で子ども役、お母さん役になって、言葉を言ってみましょう。子ども役とお母さん役を交代してみましょう。」 「理由はどうあれ、人のものを黙ってポケットに入れてしまったという状況で、ロールプレイを始めます。子どもの年齢、性格などによって、当然親の対応は変わってきます。これが、絶対よいというものはありませんが、それぞれの対応から学び合えるとよいですね。」</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・毅然として怒る親 ・悲しくて混乱して泣き出す親 ・冷静に理由を尋ねる親 など </div> <p><ワーク2> アイ・メッセージ 「どんな声かけをするか。アイ・メッセージで考えてみましょう。」</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは・・・したんだね。 ・お母さんは悲しいわわ。 など </div>	<p>◇参加者の対応について、これがよい、これが悪いというアドバイスは決してせずに、どんな対応も根底には、親の「子を想う気持ち」があることを踏まえて、それぞれの対応を認めていきましょう。</p> <p>◇子ども役をしたときに、どんな気持ちになったか、聞き出すとよいですね。</p> <p>◇親の感情をぶつけるだけのメッセージにならないように留意しましょう。</p> <p>◇わが子の年齢や性格も踏まえて、自分の家庭に合った対応の仕方を参考にしてもらいましょう。</p>
<p>もっと時間がとれるなら、こんなこともできますよ</p>			
		<p><ワーク3> 「日頃、わが子やよその子に関わって、体験されたできごとを出し合って、そのときにどんな言葉かけや対応をされたか、お互いに交流しましょう。」</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが、友だちにけがをさせた。 ・財布から黙ってお金を持ち出した。 ・子ども同士で、高価なカードやゲームを交換していた。 など </div>	<p>◇第二子、第三子のみえるベテランの親さんに過去に困った時の対応事例を話してもらうのも一方法です。</p> <p>◇出された意見をまとめたり、結論を出したりする必要はありません。自分自身、こんなヒントをもらったというように、同じ立場で話すとよいでしょう。</p>
<p>00:10</p>	<p>おわりのことば</p>	<p>「みなさん、厳しくも温かい対応をされていて本当に勉強になりました。お子さんが、今後、同じようなことに出くわしたとき、親の必死な姿を思い出して踏みとどまったり、なぜいけないかを自分で判断したりできるようになってほしいですね。」 「みなさん、今日参加されていかがでしたか。毎日、お子さんを目の前にして奮闘していらっしゃる皆様方にとって、少しでも気持ちが軽くなったり、何かヒントを得たりしていただけたならうれしいです。お話を伺っていて、本当によくやっていたら嬉しいなあと思いました。これからも、お困りのことがあれば、一人で悩まずにこうした機会を活用され、情報交換しながら、歩いていきましょう。」</p>	<p>◇最後は、参加者の日頃のがんばりを認めることのみとし、指示やアドバイスをすることは避けましょう。</p>